

□ 平成25年秋季駐車場研修会 参加レポート



中央地所株式会社
常務取締役 戸嶋 太一

平成25年秋季駐車場研修会は、10月10日(木)・11日(金)に総勢42名の参加で実施されました。研修場所は立山連峰に囲まれた富山県富山市。台風24号の影響も懸念されましたが、研修会前日には温帯低気圧に変わり、北陸富山にしては少々気温が高かったものの、非常に実りある研修会となりました。

□ 10月10日(木)

12:30にJR富山駅北口に集合し、その後貸切バスにて(株)まちづくりとやま会議室へ移動しました。

(株)まちづくりとやま会議室にて講演会

講師：富山市環境部環境未来都市推進担当参事 西中正治様

演題：「コンパクトシティ戦略による富山型都市経営の構築」について

【講演概要】

1. 富山市の概要

富山市は日本の中で静岡市に次いで2番目に面積の広い市であり、森林が市の7割を占める自然豊かな地域で、水道水がモンドセレクションの最高金賞を受賞している。今後の人口推移については全国的な動きと同様、今後35年間で人口は40万人から30万人へ減少、高齢化率は40%にまで上昇する見込み。人口分布を分析すると、高齢者の居住は富山市中心地または富山ライトレール沿線に集中。若年層は郊外に居住している。生活するにあたっては車への依存度が高いにも関わらず、公共交通の衰退が著しく、車を自由に使えない人にとって極めて暮らしにくいまちを形成してしまっていた。そのような問題を解決し、持続可能な街づくりを目指すために、富山市のコンパクトシティ戦略が発案された。



講師 西中様

2. 富山市のコンパクトシティ戦略について

- (1)公共交通を軸としたコンパクトなまちづくり
- (2)質の高い魅力的な市民生活づくり

(3)地域特性を十分に活かした産業振興

これら3つにより持続可能な都市を創出して、「誰もが暮らしたいまち」・「誰もが活力あるまち」を実現しようとするもの。

3. 公共交通を軸としたコンパクトなまちづくり

目指す都市像は「公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくり」。それを実現するための3本柱として、「①公共交通の活性化」、「②公共交通沿線地区への居住促進」、「③中心市街地の活性化」を掲げた。

○公共交通の活性化

平成18年には利用者の減少が続いていた地方ローカル鉄道を公設民営の考え方を導入し、日本初の本格的LRTシステム(富山ライトレール)に蘇らせた。富山ライトレールは、運行間隔の短縮、運行時間延長、駅数増加、全車両の低床化、電停のバリアフリー化を実施し、利用者数(特に日中の高齢者)の大幅な増加を実現。同時に、自動車やバスからの交通手段の転換による環境負荷の低減、沿線での住宅着工数の増加、沿線の観光施設の入場者数の増加も実現した。



講演会風景

平成21年には中心市街地活性化や都心地区の回遊性の強化を目的に、日本初の上下分離方式を導入し、市内電車の一部を延伸、市内電車の環状線化を行った。環状線の利用者は女性が7割を占め、平日の女性(特に高齢者)の利用が大きく増加しており、日常の移動手段として定着してきている。今後の計画としては、北陸本線の高架化を踏まえ富山ライトレールと環状線を高架下で接続し、世界に類を見ない新幹線と平面LRTの接続を計画している。

○中心市街地の活性化

富山市の税収は固定資産税等が45%を占めており、そのうち中心市街地は面積0.4%に対して税収の割合が22.2%と非常に高い。富山市としても中心市街地に集中的に投資を行い、それが税収として還流してくることは合理的かつ効果的であると認識している。具体的な例としては、イベントが開催できる広場を整備した「グランドプラザ整備事業」、「自転車市民共同利用システム」、65歳以上の高齢者を対象とした「おでかけ定期券事業」等を実施している。

○公共交通沿線地区への居住促進

中心市街地や公共交通沿線居住推進地区への居住を推進するため、建設事業者向け支援や市民向けの支援を実施しており、現在までの実績で約1,000件、約2,000戸が供給された。このような取り組みにより、中心市街地での民間投資の活発化、人口の転入超過、中心市街地での歩行者数の増加、空き店舗の減少等の効果が着々と上がってきている。

4. 質の高い魅力的な市民生活づくり

バナーフラッグやハンギングバスケットの設置による賑わいを創出する景観づくり、「花Tramモデル事業」、「富山まちあるきICTコンシェルジュ事業」、「孫とおでかけ支援事業」、「街区公園コミュニティガーデン事業」等を実施している。

5. 地域特性を十分に活かした産業振興

農山村の維持・活性化、再生可能エネルギーの活用による農業活性化、牛岳温泉熱等を活用した農業の6次産業化、立山山麓における地熱資源開発を実施している。

以上が講演の内容ですが、講演を通じて一番感じた事は、森雅志市長をはじめとする、富山市の街づくりへの積極的な取り組み姿勢でした。今後の富山市のさらなる発展を期待したくなる素晴らしい講演でした。

(株)まちづくりとやまより同社の事業概要説明

(株)まちづくりとやまは、富山市が50%を出資し、残りを商工会議所や地元商店街等が出資して設立。路線バス等の公共交通機関の整備と、市民交流や街の活性化のための場づくりが目的。代表的な取り組みとしては、「地場もん屋総本店」の運営、「グランドプラザ」の運営や情報誌の発行、店舗とタイアップした駐車場2時間無料サービスの実施等を行っている。

参加者からは、駐車場の共通割引券の運用方法等について積極的に質問が行われていました。その後、同社が運営する、地元で生産している農林水産物を販売している地場もん屋総本店や富山市まちなか賑わい広場(グランドプラザ)、レンタルサイクル事業の見学をし、次の見学先へ移動しました。



(株)まちづくりとやま 山下様

池田屋安兵衛商店(老舗薬種商)見学

池田屋安兵衛商店は江戸時代から続く越中富山の薬売りで、そこで売られている「越中反魂丹」は、江戸時代から伝わる「体に魂を呼び戻す妙薬」だそうです。参加者の皆さんはそれぞれ越中反魂丹(胃腸薬)や湿布薬をたくさん購入され、その後の意見交換会に備え、越中反魂丹を服用されていた方もおり、翌日感想を聞いてみると、悪酔いは全くせず、翌日のお酒の残りも全くなかったとのことで、薬都とやまの伝統の力を実感いたしました。



池田屋安兵衛商店

意見交換会・宿泊

池田屋安兵衛商店から1時間ほど移動し本日の宿泊先である砺波市の砺波ロイヤルホテルへ到着しました。19時からの意見交換会では、最年長参加者である長崎県の大黒土地(株)島崎様の挨拶と伴副会長の乾杯の発声で始まり、富山のおいしいお魚、お酒とともに活発な意見交換が行われていました。私自身も業界の大先輩の方々と有意義な意見交換をさせていただき、非常に貴重な体験となりました。



意見交換会風景

□ 10月11日(金)

集合時刻には参加者全員が遅れることなく集合し、再び富山市内へ向かいました。

富山ライトレール試乗

目的地である富山駅北口へ向かう途中で朝の通勤ラッシュに巻き込まれてしまい、乗車予定だったライトレールの発車時刻とほぼ同時に富山駅に到着。滑り込みセーフでなんとか乗車できました。

富山ライトレール(愛称：ポートルム)は車両が全7色あり、電気を動力としたバリアフリーの低床車両となっています。

今回は始発の富山駅北駅から終点の岩瀬浜駅まで約25分の乗車でしたが、平日の午前中にもかかわらず乗客も多く、富山ライトレールがいかに地域に根差しているかを実感することができました。



富山ライトレール乗車内

富山港展望台

次の訪問先の富山市エコタウンまで少し時間がありましたので、急ぎ富山港展望台へ立ち寄りました。

展望台は地上から24.85mの高さがありそこまで階段で登りましたが、展望台に着くころには息が完全にあがってしまい、日頃の運動不足を痛感いたしました。展望台からの眺めは非常に素晴らしく、立山連峰や富山湾を一望することができ、足腰の疲れも幾分か和らいだような気がしました。



富山港展望台

富山市エコタウン見学

1. 富山市エコタウン交流推進センターより事業概要の説明

エコタウン事業とは、ある産業から出るすべての廃棄物を新たに他の分野の原料として活用し、あらゆる廃棄物をゼロにすることを目指す『ゼロエミッション構想』を基軸に、地域の振興を図りながら環境と調和したまちづくりを推進する事業のこと。エコタウン制度は、経済産業省と環境省により平成9年に創設され、富山市は平成14年5月に、全国で16番目、北陸では初めてエコタウンプランが承認された。富山市エコタウンは既存の北部工業団地にある工場跡地、約18haを「エコタウン産業団地」として資源循環拠点に位置付け、このエコタウン産業団地にリサイクル施設を集約するとともに、エネルギー利用も含め団地内のゼロエミッション化を進めている。現在、エコタウン産業団地には7つのリサイクル施設が揃い、サーマルリサイクルも含めた資源循環を推進している。また、富山市では、エコタウン交流推進センターを整備し、環境学習と環境活動の拠点施設としてエコタウン産業団地への見学会や啓発事業などを行っている。



研修風景



富山市エコタウン交流推進センター
加藤様

2. リサイクル施設見学

事業概要の説明を受けた後は、リサイクル施設を2施設見学させていただきました。

○富山BDF株式会社

同社は家庭やレストラン、給食センターなどから出る使用済みのてんぷら油(廃食用油)を原料にバイオディーゼル燃料(BDF:植物性油脂などを加工したディーゼルエンジン用燃料の総称)を精製しており、工場内では賞味期限切れのオリーブオイルを使ってバイオディーゼル燃料を製造していました。ここでは1日当たり3,800リットルのバイオディーゼル燃料を製造する事ができるそうで、敷地内にはディーゼル燃料のセルフスタンドも設置されていました。



見学風景

○富山グリーンフードリサイクル株式会社

ここでは、生ゴミや有機性廃棄物をバイオガス化技術によりバイオガスを発生させ、そのエネルギーと発酵消化液を利用して剪定枝等を良質な堆肥(土壌改良材)とすることにより、ゴミの減量、地球温室効果ガスの削減への寄与、堆肥の緑地・農地等への還元により地球の環境負荷軽減に貢献することを目的としています。施設内では生ごみの破碎分別機や剪定枝の破碎機、発酵槽、堆肥の袋詰め工程を見学させていただきました。



見学風景

昼食

昼食は富山名物の白エビ料理をいただきました。近隣にはお土産屋や運河沿いのボート停泊場があり、食事後は買い物や散歩等をして過ごしました。

八尾町

研修会最後の訪問先は、富山市南部の八尾町でした。八尾町は毎年9月1日から3日の「おわら風の盆」が有名で、越中おわら節の哀切感に満ちた旋律にのって、坂が多い町の道筋で無言の踊り手たちが洗練された踊りを披露し、期間中は合計25万人前後の見物客が訪れるそうです。まず「八尾おわら資料館」にておわらの歴史やおわらの映像を大型スクリーンで体感した後、石畳の美しい諏訪町の町屋ストリートを散策し、八尾町の情緒あふれる街並みを感じることができました。



諏訪町本通り

最後に

今回の研修会では富山市のコンパクトシティ構想やエコシティへの積極的な取り組みを肌で感じる事が出来、大変有意義な研修会となりました。企画委員の皆様、事務局の皆様にあらためて御礼を申し上げ、レポートを締めくらせていただきます。ありがとうございました。

以上